

# 辰口中央小学校樹木管理業務委託仕様書

## 1. 一般事項

- 1) 発生材の処理は、受注者が処理し現場に存置することなく作業の都度搬出し、適正に処分するものとする。ただし、あらかじめ担当職員の確認を得たものについてはこの限りではない。
- 2) 本仕様書に記載なき事項、また業務実施中に疑義が生じた場合は、その都度発注者と協議し指示に従うこと。
- 3) 現地確認の立会いは、双方協議して定めるものとする。
- 4) 契約期間中に受注者から管理内容の変更について申し出があった場合は、双方協議して定めるものとする。
- 5) 作業に当たっては、樹木・芝等の特性及び環境条件を勘案し、細心の注意をもって作業を行うこと。
- 6) 作業時間は、原則として午前8時30分から午後5時までとする。
- 7) 作業の実施に当たっては、第三者に危険のないように十分配慮して行うとともに、来客車両、施設及びに損傷を与えないように行うこと。
- 8) 作業に使用する薬剤、肥料等は、季節・環境に適正なものを使用すること。
- 9) 本仕様書は業務の概要を示すものであって、本書に記載ない事項であっても発注者が管理上必要と認めた軽微な業務については、業務委託料の範囲に含むものとする。
- 10) 電気または水道の使用にあたっては、極力節電、節水に努めること。
- 11) やむを得ず業務の一部を第三者に委託又は請け負わせる場合は、あらかじめ書面により市担当職員の承諾を得なければならない。
- 12) 業務の全部又は部分払に係る業務の一部分を完了したときは、業務結果報告書(※1)を発注者に提出し、発注者が出来形を確認した後、業務委託料の支払いを請求することができる。発注者は、請求を受けてから30日以内に支払わなければならない。
- 13) この仕様書の事項にないものについては、協議の上定めるものとする。

※1 業務結果報告書とは、下記の書類をとりまとめたものをいう。

- ①作業前・作業後の写真
- ②作業中の写真
- ③業務履行報告書・作業月報等、履行状況・数量等がわかるもの
- ④その他、担当職員が必要と認めたもの

## ○樹木管理

### 1. 作業数量

1) 刈込（生垣・手刈り）	4 0 m
2) 機械除草（集草、積込運搬込）	1, 6 5 0 m <sup>2</sup>
3) 薬剤散布（年2回）	5 0 0 0
4) 下刈り	3 2 0 m <sup>2</sup>

※実施日・日程については、植樹の成長を勘案し、発注者と細心の調整をはかること。

### 2. 作業内容

#### ア 剪 定

#### 1) 目 的

樹木の伐採は、倒木した際の校舎への被害を防ぐことを目的とし、樹木の剪定は、樹木の健全な育成、美観の維持、形状の調整、及び病虫害の予防を目的とする。

#### 2) 伐採

被害防止を目的とするもので、学校の校務員が樹木を剪定することができたり、薬剤を散布することができる高さまで伐採する。

#### 3) 基本剪定

樹形の骨格作りを目的とするもので、樹種の特性、種々の制約条件に応じ、最も適切な選定方法により行うものとする。

#### 4) 整姿選定

混みすぎによる枯損木枝の発生防止や風害の予防などを目的とするもので、枝抜きなどを行うものとする。

#### 5) 中低木刈込み

刈込みはさみや刈込み機を用いて木冠などを刈込み、樹形を整えるとともに混み過ぎた枝や枯れ枝を除去し、通風、採光を確保するように行うものとする。

#### 6) 刈り込みの方法

- 樹形全体に凹凸のないように、一定の形又は一定の高さに刈り込む。
- 花木の刈り込みにあたっては、花芽分化時期に留意すること。
- ベンチなどの背後や広場・園路に沿って植栽されている中低木の刈り込み、剪定作業に際しては、鋭利な切断面が生じないように、切り戻しなどの適切な措置をとること。
- 枯損枝は、切除すること。

## 7) 下刈

全刈を原則とし、笹・竹、かん木類の生育に支障となる地被物を地際から刈払わなければならないものとする。

## イ 病虫害防除

### 1) 目的

病虫害の発生は、樹木の健全な生育を妨げ、植栽の持つ機能の低下をもたらすほか、公園緑地等の利用者や周辺住民に対し不快感や虫刺されなどの被害を与える。また、場合によっては、周辺の庭木や農作物などにも被害が波及する恐れがある。このため、病虫害を早急に発見し、発生を認めたら速やかに防除することを目的とする。

### 2) 剪定防除

- 病虫害の発生枝をすべて剪除する。
- 枝葉についている害虫が落下しないように注意深く切取る。落下してしまった場合は、清掃する。
- 剪除した枝及び害虫は、速やかに処分する。
- 病害の剪除に使用した道具は、必ず消毒する。

## ウ 薬剤散布

- 農薬使用にあたっては、農薬取締法その他関係法令、及び農林水産省・環境省の「住宅地等における農薬使用について」（平成25年4月26日 25消安第175号・環水大土発第1304261号）を遵守すること。
- 使用する農薬は、農薬取締法に基づいて登録された、当該防除対象の樹木などに適用のあるものを用い、ラベルに記載されている使用方法（使用回数、使用量、使用濃度等）、使用上の注意事項を守って使用する。また、現地混用は極力避け、混用を行う場合は「住宅地等における農薬使用について」に基づき十分注意する。また、展着剤等の補助剤を用いて散布後2週間程度の効力がある薬剤を使用すること。
- 事前に周辺住民などに対して、農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類について十分な周知を行う。特に農薬散布区域の近隣に学校、通学路などがある場合には、当該学校や子どもの保護者などへの周知を図り、散布の時間帯に最大限配慮すること。また、周辺に食用農作物が栽培されていないか確認し、必要に応じ農作物栽培者に対し連絡する。
- 散布時に、立て看板の表示などにより、散布区域内に歩行者などが入らないように最大限の配慮を行う。また、散布区域及び周辺の車両、家屋、ペットなどに農薬がかからないように十分注意するとともに、必要により養生する。
- 散布は噴霧器などを使い十分圧力をかけるとともに、風向きなどを考慮し、薬剤がむらなく均一に散布できるようにする。
- 降雨、風の強い日は散布を中止する。
- 落下した枝葉、害虫は清掃する。
- 使用機器及び薬品の保管については、事前及び事後を通じ十分注意し、作業終了後は法令に従い処理する。
- 空き瓶、残液の処理についても法令に従い処理する。